

「さすがスカウト！！」と言われるような

新 藤 信 夫

スカウトを育てよう！！

「最近のスカウトたちのだらしなさや、態度にメリハリのなさ」を感じております。

普段遊んでいるときと、セレモニーなどきちっとすべきところのメリハリがついてない。この状況を見て、奥島理事長からいつも指導者のレベルを上げるように言われておりました、これすなわち社会から期待されるような「**さすがスカウト**」と言われるようなスカウトたちが育っていないことは**我々指導者の質が悪い**と言われているものと思います。

1. スカウトは教えればできます。（指導者が教えていないのが問題です！！）

毎年3月下旬に富士スカウト章を取得したスカウトの代表者たちを皇太子殿下、内閣総理大臣、文部科学大臣への表敬訪問を実施しております。ところが集まってくる多くのスカウトたちは、「**気を付け**」「**回れ右**」「**右向け右**」などの**基本動作**がほとんど出来ません。

スカウトたちには、入隊したらまず規律（基本動作）が教えられるものと思っておりますが。前日スカウト会館に集まって皇太子殿下や、総理大臣の前で失礼のない様に基本動作や、決意表明の練習を行って本番に臨んでおり、スカウトたちは立派に責任を果たしております。普段の集会で教えていないのでしょうか？ **教えれば出来るのです！**

2. 若手の指導者を育てよう！！（富士スカウトはスカウト活動の終着点ではない）

富士スカウトになって、皇太子殿下や総理大臣に会うことができたならもう自分のスカウト活動の目的が達成したからボーイスカウトを辞めてしまうという人がおります。

毎年150名近い富士スカウトが誕生しております。このスカウトたちがローバーや指導者として登録を継続して、社会へ出てシチズンシップを発揮すると同時に、自分が育ってきたボーイスカウト隊にも指導的立場で還元して頂きたいと思っております。そのためには**隊長から常に「スカウト活動を続けて、社会に貢献できる君の活躍に期待している」**と言うような一言が大切になると思います。富士スカウトは社会に向かってやっと出発ラインにたった段階です。ここからのスカウト活動が富士スカウトの本領発揮の時期なのです。

3. 基本動作の指導を重点的に！！

日本連盟の事業計画の中に、「**礼儀(挨拶)と規律(基本動作とスマートネス)と公共のマナーを確実に指導する**」と載せましたら、スカウト教育推進会議では年度計画なのだからここまで書かなくても？？ 政策会議でも事業計画に書くことではないとか喧々諤々の意見でした。長年リーダーをやってきた私としても非常に寂しいことですが、現状はこのレベルでしかないことを指導者の皆さんも理解して指導して頂きたいとお願いして載せました。そんなこともあり日本連盟の統一した基準として、「**基本動作・礼式の基準**」の冊子を作り**全国に展開**を致しました。

スカウト運動は形ではない、「**ちかい&おきての実践**」が出来れば良いのだとおっしゃる方も多いと思いますが、今回のユニフォーム改定を含めて、まず「**カッコ良さや、規律正しい行動、きれいに揃った形**」を作って**社会にアピールすることも大切な事**と思います。

一般社会の人たちから見れば、「ボーイスカウトはカッコいいユニフォームを着て、礼儀や規律が正しく、奉仕活動をしている団体」と思われております。このことが全てではありませんが、まずここから進めていくことも大切なことと思います。奥島理事長からは、創立100周年では銀座でパレードしたいという話も出ているようです。
(少なくとも関東圏の多くのスカウト達でカッコいいパレードを！！)

4、規律正しい行動は、他団体の行動も参考にしよう！！

日本のトップクラスの日本体育大学の男子・女子の集団行動や、福岡の精華女子高等学校のマーチングバンド・奥島理事長の系列校の早稲田摂陵高校ウインドバンド、京都橘高校吹奏楽部、大阪の淀川工科高等学校の吹奏楽部などのように寸分違わぬハイレベルの行進体制を取らせるべきだとは言いませんが、**一般の小・中学校の生徒たちに比べたら2段3段上のレベルまでマスターさせたいものです。**

新しくスカウト活動に入ってきたら「大きな声で挨拶ができる」「規律正しい行動が取れる」ことぐらいは確り教えて、保護者から「スカウトに入れたらうちの子は変わったね」と言っていただけの様にしたいものです。親は何のために子供をボーイスカウト活動に入れたのか。指導者としては親へ対する顧客満足度をしっかり考えて対応したいものです。

5、公共のマナーを守りましょう。

日本連盟のある会議の中で、月曜日になるといろいろなところから土日のスカウト活動について事務局に苦情の電話がかかってくると嘆いておりました。それは、電車の中でビーバーやカブスカウトたちが騒いでおり周りが迷惑をしているということです。

子供たちが騒ぐのは仕方ないと思いますが、**引率の指導者がそれを見ていて何も注意しないことに対する苦情のです。**普段から公共の場での行動の仕方をしっかり教えておくと同時に、ビーバーやうさぎクラスのスカウトには**その場、その場でタイミングよく指導すること**に、リーダーは気を使って欲しいものです！！

*** ユニフォームを着ていれば良いことも、悪いことも目立つものです！！**

6、スカウト活動の活性化につとめよう！！

日本のスカウティングは登録人口の減少とともに、満足のいく班集会や隊集会ができず、全体的にスカウトたちの行動や技能レベルなどが低下しているものと思われます。

23WSJを日本で開催したのは、現在のように減少傾向にある日本のスカウト運動を活性化させることが目的のひとつでもありました。

そのために何をするか！！日本連盟や県連盟が何をしてくれるのかを待つのではなく、世界ジャンボリーや日本ジャンボレット高萩などのイベント経験をどのように活かして、自団の募集やスカウト活動に使えるか、団の発展に引いてはスカウト運動の活性化に結び付けることができないかを皆さんで考えて、団として、地区として、県連として、日本連盟として実践していくことを考えたいものです。

「有志必成」ということばがあります、「**明確な志を持って事に当たれば必ず目標は達成することができる**」、ということですが、**私たちにとっての志とは何か、「世の中に役立つ青少年の育成、さすがスカウトと言われるスカウトを育てること」**即ちスカウトたちの質の向上を如何に行うか、ひとえに全国の指導者の皆さん一人一人の活性化への取り組みと、常に『**より良いスカウトを育成する**』という「**ミッションの認識とその努力にパッションを持って取り組むこと**」に他ならないと思っております。

*** 今の子供は言われたことしか、しない、できない、自分で考え、自分で行動できるように！**